



南戸塚中だより

令和2年度 第11号
令和3年2月12日発行
学校長 赤堀 貴
電話 871-7611



3年生は受験本番！1・2年生もこの時期の感覚をつかんでおこわ

高校受験の本番になりました。私立高は主に2月10日(水)、県内公立高は15日(月)に行われます。これまで頑張って身につけた力を出し切ってください。中学校で行う定期試験もある程度緊張すると思いますが、高校入試の本番はその何倍も緊張することでしょう。そういう場を経験することも将来にとって大切なことです。「緊張しないように」というより「うまく緊張を受け入れて」いくのがいいと思います。南戸塚中生の健闘を祈っています。



お弁当忘れの対応・・・おこわ

本校では、お弁当忘れを昼食時になって分かった生徒には、パック入りの「おこわ」を食べてもらう対応をしています。昼食は家庭から弁当を持参するか、ハマ弁を注文しておくか、その日の朝、業者弁当を注文しておくことになっています。お弁当忘れの対応は学校によって様々です。これまで勤務したT中学校では100円のロールパン(5個入り)を職員が買ってくることになっていました。N中学校ではおにぎり2個と決まっていた。K中学校はパンの自動販売機がありました。高校に勤務していた時は、学食があったので(横浜市立高校には学食があります)対応なしでした。

さて、「おこわ」をもらいに来る(110円で購入する)生徒や対応する先生が「おこわ」を「おこわ」と発音することがずっと気になっています。私の中ではアクセントなく平坦に「おこわ」と言う。このようなことは、よくあることです。でもとても気になってしまうのです。

埼玉県に「本庄」というJR高崎線の駅があるのですが、この駅の機械のアナウンスでは「ほんじょう」と放送されていました。ところが、地元の人にとって本庄は平坦に「ほんじょう」と発音するのが正しく、違和感があったそうです。そこで市民の要望によって放送が変えられたそうです。

ところで、「おこわ」を漢字で書けますか？赤飯など、もち米を蒸した飯を強飯(こわめし)と言ひ、これが御強(おこわ)と言われるようになったそうです。是非、御強はおうちで美味しく食べてくださいね。



裏面あり

タイトル上のメッセージ

曲名も“The long and winding road”です。「人生」は「航海」など、いろんなたとえをされますが、この曲も人生を歌っているのでしょうか。“that leads to your door.”(それは君の扉へと続く)と歌詞は続きます。長い道のりを目指してたどり着いた扉を開けると、何があるのでしょうか。見たことの無い世界があるのでしょうか。その先に、また次の扉につながる“The long and winding road”があるように私は考えてしまいます。

優秀賞！～市中学校新聞コンクール～

本校での取り組みの一つに2年生の新聞制作があります。新聞コンクールでは昨年度に続き優秀賞をいただきました。デジタル主流の時代となっていますが、手作業で作られる壁新聞は味わいがあり、心惹きつけられます。この紙面で紹介する画像では全体の雰囲気しか分かりませんが、3階ホールに掲示してあります。是非、ご覧ください。また、興味のある人は制作にチャレンジしてみませんか。他校ではなかなかできない経験・勉強になること間違いなしです。以下、制作にあたった生徒のことばです。

今年度は、コロナのために2年生はみなかみ自然教室へ行くことができませんでした。本来なら、そのことを記事にして新聞を作る予定でしたが、今回はコロナ禍での日常生活について書くことにしました。

この新聞制作には、記事や見出し、イラストなど約20人近くの仲間が関わっています。今回は2回目ということもあり、前回よりも慣れていたので、より凝った作品を作ることが出来ました。一枚の紙に絵や字を書くことで、その紙が動き出すような感じにワクワクしたり、仲間と一緒に試行錯誤しながら新聞を創り上げたときはとても達成感があります。来年も、是非みんなと挑戦したいです。

食育

最近よく耳にするようになった「食育」ということば。私が生徒だったときや教員になってしばらくは聞いたこともないことばでした。

「食育」とは、「近年、偏った栄養摂取、朝食欠食など食生活の乱れや肥満・痩身傾向など、子どもたちの健康を取り巻く問題が深刻化しています。こうした問題を解決する重要な役割を果たすのが食育です。平成17年に食育基本法が、平成18年に食育推進基本計画が制定され、子どもたちが食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けることができるよう、学校においても積極的に食育に取り組んでいくことが重要となっています。」(文科省HPより)

「食育」という言葉自体は明治時代から存在していたそうです。戦争を経験した方から、「食べるものがなく芋のつるまで食べた」「米一粒でも粗末にすると目がつぶれる」など言われたものですが、今の日本では食べ物は豊かになりました。食べ過ぎないように気を付ける時代になるなんて考えられなかったかもしれません。「食べることは生きること」です。健康的に食べることを大切にしていきましょう。

